

中国語における総称目的語の脱落について¹

—英語との比較を中心に—

電子科技大学 王 丹丹

キーワード：総称名詞句、目的語の脱落、動詞の意味、構文

1. はじめに

中国語は *pro*-脱落言語であり、文脈が整えば、主語も目的語も自由に脱落できると言われている (Huang1984, 1989 など)。例 (1) (2) は中国語の主語・目的語が脱落した例である。²

(1) 张三_i 说[*pro*_{ij} 很 喜欢 李四]。 (Huang1989 : 193)

張三 言う とても 好きだ 李四

‘張さんは李四のことが大好きだと言った。’

(2) A: 我 的 早餐_i 呢?

私 の 朝ごはん Q

‘私の朝ごはんは?’

B: 我 吃 *e_i* 了。

私 食べる Perf

‘私 *e* 食べちゃった。’

(1) では、埋め込み節の主語が脱落している。この空主語 *pro* は、主節の主語である“张三” (張三) あるいは、話題となっている第三者を指示している。(2) の B は、A の質問に対する答えであり、動詞“吃” (食べる) の目的語が脱落している。この空目的語は、話題の“早餐” (朝ごはん) を表している。

一方、英語では、中国語のように自由に主語や目的語が脱落できないことが知られている。

(3) (4) に示すように、(1) (2) のような場合、英語では、主語も目的語も顕在的に現れることが要求され、脱落すると非文になってしまう。

(3) John said that [he/*e beat Bill].

(4) A: What happened to that gazelle?

B: The tiger killed * (it) .

(Goldberg2001 : 512)

¹ 本稿は、韓国日本語学会第 47 回大会 (韓国・全州大学) で口頭発表した内容に修正を加えたものである。本研究は、電子科技大学中央高校基本科研業務費“汉日英从句结构对比研究” (ZYGX2015J166) の成果の一部である。

² 便宜上、一部を改変した引用例文がある。

(1) ~ (4) の対立を見ると、文中要素あるいは話題に現れたトピックなどを指示する特定 (specific) の意味解釈を有する目的語は、中国語においては脱落可能であるが、英語では脱落できないことが分かる。ただし、英語では、不定の・不特定の (indefinite/unspecified) 目的語が脱落することがあると言われている。

- (5) a. As a boy he often **stole** e. (Mittwoch2005 : 247)
 b. That dog **bites** e. (Goldberg2001 : 518)
 c. John is **reading/drinking** e. (Mittwoch2005 : 237)

(5) では、動詞 “stole”、“bite”、“read”、“drink” の目的語はいずれも現れていないが、文は問題なく成立する。(5) と (4) の違いは、(4) の動詞がとる目的語は特定の対象を表すのに対して、(5) の動詞の目的語は不定の・不特定の対象を表わすという点にある。こうした事実から、目的語の脱落可能性は、その意味解釈が特定の解釈であるか否かによって異なってくる事が分かる。

本稿は、英語との比較を通して、中国語における不定・不特定の目的語が脱落できるか否かという点について考察する。主として、中国語における総称目的語の脱落が可能であると思われる状況を記述し、脱落の可能性及び理由を探る。

本稿の構成は以下のとおりである。2 節では、中国語における目的語の省略に関する先行研究を概観する。3 節では、総称的解釈と任意の解釈の相違について考察し、本稿で用いる用語を明確する。4 節では、英語との比較を通して、中国語における総称目的語の脱落が可能であると思われる状況について考察する。5 節では、まとめと今後の課題を述べる。

2. 中国語における目的語の省略に関する先行研究

Huang (1984) は、中国語において、目的語は比較的自由に脱落できること、空目的語はゼロトピックに束縛される変数であり、その意味解釈はゼロトピックによって復元されることを指摘している。

- (6) a. 张三 说[李四 不 认识 e]。 (Huang1984 : 537)
 张三 言う 李四 ない 知る
 ‘张三は李四が e 知らないと言った。’
 b. [Top e], [张三 说[李四 不 认识 e]]。 (Huang1984 : 542)
 张三 言う 李四 ない 知る

王 (2008b, 2014) は、Huang (1984) が扱う特定の意味解釈を有する目的語ではなく、中国語における任意の人を表す目的語に注目し、任意の人を表す目的語 “人” が脱落しにくいという事実を指摘している。

- (7) [欺负 人/*e_{arb}] 是 不 应该 的。 (王 2014 : 140)
 いじめる 人 だ ない べき の
 ‘人をいじめることはすべきでない。’

(7) が、「人をいじめることはすべきでない」という意味を表すためには、“欺负” (いじめ

る)の目的語“人”が顕在的に現れなければならない。“人”が脱落すると、特定の意味解釈となり、任意の人という解釈ができなくなる。その理由について、王(2008b)は、空目的語の性質及びトピックになる要素の性質という観点から説明している。すなわち、中国語における空目的語はゼロトピックに束縛される変数であり、ある目的語が脱落するには、まずトピックになる必要がある(Huang1984)。トピックになる要素は、特定の意味解釈を持つ要素でなければならない(Li & Thompson1976など)。任意の人を表す目的語の“人”は、不特定の人を表すため、トピックになることができない。したがって、任意の人を表す目的語は脱落しにくい。

劉(2007)は、中国語における空目的語の意味解釈と語用論的特徴について論じている。その中で、目的語がゼロの形で現れる場合、文が表すイベントのタイプ及び語用論的意味が変わり、文の機能が具体的なイベントの発生を報告することから、行為そのもの、あるいはある行為の重要性を強調することに変化すると指摘している。

(8) a. 他 只 知道 吃。

彼 ただ 知る 食べる

‘彼は食べるばかりだ。’

b. 他 不 偷, 不 抢, 你们 凭 什么 抓 他?

彼 ない 盗む ない 奪う あなたたち によって 何 捕まえる 彼

‘彼は盗んだり、奪ったりしないのに、何で彼を捕まえるの?’

(劉 2007 : 44-45)

(8a)では、動詞“吃”(食べる)の目的語は現れていない。この文は、具体的に「彼は何かを食べた」という完了イベントではなく、「彼はただ食べることを考えている」という主語の属性や特徴を表現する未完了の行為を表している。(8b)では、動詞“偷”(盗む)、“抢”(奪い取る)の目的語も現れておらず、“偷”(盗む)、“抢”(奪い取る)といった行為そのものに焦点を当て、その行為の重要性を強調しているとされる。

(8)における空目的語は、いずれも特定の対象ではなく、不定の・不特定な対象を表すという点は重要である。王(2008b)が示した任意の人を表す目的語が脱落しにくい理由に照らすと、(8)における不特定の目的語は、トピックになることができないため、脱落できないはずである。しかし、実際には、ゼロの形で現れても文は成立する。これはなぜだろうか。4節では、中国語における不定の・不特定な目的語の脱落について、英語と対照しながら詳しく考察し、(8)が成立する理由について考える。

3. 任意の解釈と総称的解釈

先行研究では、不定の・不特定な人/物を表わす要素に対して、任意の解釈(Arbitrary Interpretation)と総称的解釈(Generic Interpretation)という二つの用語が用いられている。本節では、両者の相違を明確にし、本稿で用いる用語を提示する。

Chomsky(1981, 1986)やSuñer(1983)、Rizzi(1986)では、任意の解釈という概念

が用いられている。任意の解釈は、[+human, +generic]の素性を持っており、総称的な (Generic) 時間環境において、物ではなく、不定の・不特定な人を指示するとされている。(9)に示すスペイン語における *pro*、英語における “one”、日本語及び中国語における「人」、「人」は、いずれも任意の解釈を持つ要素である (Suñer1983, Rizzi1986, 王 2008a, b など)。

(9) a. *pro* se ve el lago desde aquí. (Suñer1983 : 189)

Refl see the lake from here.

‘ (One) sees/ (People) see the lake from here.’

b. **One** shouldn’t do such things. (Chomsky1986 : 117)

c. 人を殴るのは良くない。 (王 2008a : 23)

d. 欺负 人 是 不应该 的。 (王 2008b : 484)

いじめる 人 だ べきでない の

‘人をいじめるのはやるべきことではない。’

一方、Kuroda (1983)、影山 (1993, 2011) などでは、任意の解釈を持つ要素には人間を表すものも、物を表すものもあるとされている。

(10) a. 子供を育てるのは難しい。 (影山 1993 : 57)

b. I don’t drink **wine**. (影山 2011 : 107)

影山では、(10a)における目的語の「子供」は特定の子供ではなく、子供一般を指すという。また、(10b)における “wine” は特定の具体物ではなく、ワイン全般を表すという。影山は、このような子供一般やワイン全般を表す名詞句は、一般的・総称的概念を表す総称名詞句であるとしている。福沢 (1985) では、総称名詞句は、物や人などをその種類・種族のクラスに分け総称して述べるものであり、総称的クラスを構成する個々の成員は、各々、異なり、その指示物は非特定の (nonspecific) であるとされている。本稿では、総称名詞句の意味解釈³を総称的解釈と呼ぶことにする。

総称的解釈と任意の解釈は、人を表すか、人と物の両方を表すかという点では異なるが、総称時 (generic time) を持つ文脈環境に現れるという点では一致している。そのため、任意の解釈は、人間という集合の中からどの個体を選んでも、それが総称時を持つ文の命題に適合できるということを意味するのに対し、総称的解釈は、ある集合全体の中からどの個体を選んでも総称時を有する文の命題に適合できることを意味すると言える。本稿では、任意の人だけでなく、不定の・不特定な人や物を表わす中国語裸名詞の目的語が脱落する現象を考察対象とするため、総称的解釈という用語を用いることにする。以下では、不定の・不特定な人あるいは物の目的語を総称目的語と呼ぶ。

³ Chafe (1970) では、名詞が総称であるか非総称であるかは、名詞内の選択によって決定されるのではなく、名詞が付け加えられている動詞によって自動的に決定されるとされている (チェイフ 1974 : 212)。

4. 中国語における総称目的語の脱落

本節では、英語との対照を通して、中国語における総称目的語の脱落現象について考察し、脱落の可能性と理由を探る。

4.1 特別な動詞による総称目的語の省略

よく知られているように、英語では、一部の動詞において、他動性・自動性の交替現象が見られる。すなわち、ある動詞が同じ主語を持つ場合、他動詞的にも自動詞的にも使うことができる。自動詞的に用いられる場合、目的語はゼロの形になると考えられる。(11) (12) は、目的語が脱落した英語の例である。

- (11) a. As a boy he often **stole** e.
b. That dog **bites** e.
c. John is **reading/drinking** e.

((5) の再掲)

- (12) a. In Mediterranean countries they **build** e mainly on the hilltops.
b. I usually **buy** e in that shop.

(Mittwoch2005 : 245-246)

(11a) は過去時制の文であり、言語化されていない“stole”の目的語は、不特定なモノを表わす。(11b) は現在時制の文であり、“bite”の空目的語は特定の人ではなく、一般的な人を表す。(11c) は現在進行形の文である。“read”の目的語は本や新聞、手紙など、何らかの読み物を表し、“drink”の目的語はお酒やジュースなどを表す。同様に、(12)における動詞“build”、“buy”の対象は、それぞれ建物一般、商品一般である。

興味深いことに、(11) (12) に対応する中国語は、総称的解釈としてはいずれも成立しない。次の(13) (14) を参照されたい。

- (13) a. 当 他 是 个 孩 子 的 时 候 经 常 偷 # (东 西)。
~時に 彼 だ CI 子 供 の 時 一 つ も 盗 む も の
‘彼は子供の時、よく# (ものを) 盗んだ。’
b. 这 条 狗 咬 # (人)。
この CI 犬 噛 む 人
‘この犬は# (人) を噛む。’
c. 张 三 在 看 # (书) / 喝 # (酒/ 东 西)。
張 三 Dur 読 む 本 飲 む お酒 も の
‘張三は今# (本を) 読んでいる# (お酒/ものを) 飲んでいる。’

- (14) a. 在 地 中 海 国 家, 人 们 一 般 在 山 頂 上 修 建 # (房 子)。
で 地 中 海 国 人 々 普 通 で 山 頂 上 建 て る 家
‘地中海の国では、普通山頂で (建物を) 建てる。’

b. 我经常 在 那 家 店 买 # (东西)。

私 いつも で あの CI 店 買う もの

‘私はいつもあの店で(ものを)を買う。’

(13a) のように、「彼」が子供時代にした悪い行いを述べる場合、不特定な物を表す目的語“东西”(もの)は必ず言語化しなければならない。これを脱落させると、話題にしているある物を、彼が子供の時によく盗んだという特定の意味解釈になる。(13b)は、“咬人”(人を噛む)という“这条狗”(この犬)の特徴・属性について述べた文であり、一般的な人を表す総称名詞の“人”(人)が脱落した場合、“这条狗”(この犬)の特徴を表す総称的解釈は得られない。(13c)では、「張三は読書している/飲酒している」という意味では、目的語の“书”(本)や“酒”(お酒)は脱落できない。脱落した場合、特定の意味解釈になる。同様に、(14)において総称的解釈を保つためには、動詞“修建”(建てる)、“买”(買う)の目的語“房子”(家)、“东西”(もの)は必ず言語化しなければならない。

(11)(12)のような英語における不特定の目的語の脱落現象について、Mittwoch (2005)は、脱落可能な目的語の意味解釈は、動詞の基本的な意味に基づく指摘している。例えば、(12a)における“build”の目的語は建物でなければならず、(15)のように、プログラミングするという意味では、目的語が脱落すると容認度が下がるという。

(15) ? Nowadays everybody builds on the computer. (Mittwoch2005 : 246)

(13)(14)で見たように、(11)(12)に対応する中国語で、総称的解釈を保つためには、いずれも顕在的な目的語が必要であり、脱落すると特定の意味解釈になる。このように、同じ意味を持つ語であっても、異なる言語においては、異なる文法的振る舞いを見せる場合がある。こうした事実から、語彙意味の観点のみによっては、異なる言語間の違いを説明しきれない場合があることがわかる。

次に、中国語において、総称目的語の脱落を許す動詞がかなり限られていることを見る。

(16) a. 你 每天 就 只 知道 吃 e, 其他 还 会 干 什么?

あなた 毎日 ただ だけ 知る 食べる ほかに さらに できる する 何

‘あんたは毎日食べて/遊んでばかりいるけど、ほかに何ができるっていうの?’

b. 我 的 爱好 就 是 吃 e。

私 の 好み ただ だ 食べる

‘私の趣味は食べることだ。’

c. 张三 没有 其他 爱好, 就 是 喜欢 喝 两杯 e。⁴

張三 ない ほかの 好み ただ だ 好き 飲む 二杯

‘張三はほかに趣味はないが、ただお酒をいくらか飲むことは好きなようだ。’

⁴ この例文では、数量詞“两杯”(二杯)が必要である。“两杯”を省略すると、容認度が低くなる。その理由については現段階では説明できないため、今後数量詞の使い方などをより詳細に考察し、明らかにしたい。この例文は、動詞“喝”(飲む)の総称目的語が脱落するためには、一定の条件が必要であることを示している。

(16) は、主語の特徴について述べた文あるいは主語について定義する文であり、いずれも文全体が総称的時制を持っていると考えられる。動詞“吃”（食べる）の目的語が表す対象には、ご飯や果物、魚など、様々なものが考えられるが、(16a, b) のような環境では、“吃”（食べる）の目的語がゼロの形になった場合、その目的語は特定の対象を指さず、ご飯や果物、魚などを含む食べ物全般を指す総称的解釈となる。それに対して、動詞「飲む」は酒や水、ジュース、ワインなど、目的語として様々なものを取り取ることができるが、(16c) のような主語の特徴について述べた文においては、目的語が省略されると、その意味解釈は限定され、お酒のみを指す。ただし、そのお酒は、目の前にあるお酒など、特定のお酒ではなく、お酒全般という総称的解釈になる。これらの空目的語を復元すると、“吃东西”（ものを食べる）、“喝两杯酒”（お酒をいくらか飲む）のようになる。

一方、次のように、(16) における動詞“吃”（食べる）、“喝”（飲む）を“读”（読む）や“买”（買う）、“织”（編む/織る）などの動詞と入れ替えると、総称的解釈の読みでは、正しい文として成立しなくなる。

- (17) a. 你 每天 就 只 知道 读 # (书), 其他 还 会 做 什么?
あんた 毎日 ただ だけ 知る 読む 本 ほかに また できる する 何
‘あんたは毎日（本を）読んでばかりいるけど、ほかに何ができるっていうの?’
- b. 我的 爱好 就 是 买 # (东西).
私の 好み ただ だ 買う もの
‘私の趣味は買い物をする事だ。’
- c. 妈妈 平时 没 事 就 织 # (东西).
母 普段 ない こと ただ 編む もの
‘母は普段暇なときに、編み物をする。’

このように、中国語では、“吃”（食べる）や“喝”（飲む）などの動詞では、総称目的語の脱落現象が起きるが、Mittwoch (2005) が指摘する英語における総称目的語の脱落を許す動詞の数と比べ、そのような動詞の数がかかなり少ないことが分かる。⁵

4.2 特別な構文に見られる総称目的語の脱落現象

中国語における特別な構文形式において、総称目的語が脱落していると思われる現象がある。本節では、可能・難易構文及び並列・対比の文脈を持つ文について考察する。

4.2.1 可能・難易構文における総称目的語の脱落現象

可能・難易構文は、具体的な動作を表す文ではなく、ある状態・属性を描写する文であるため、総称的解釈を取りやすいと考えられる。中国語では、以下に示すように、可能・難易

⁵ Mittwoch (2005 : 238) では、英語における総称目的語の脱落を許す動詞を七種類に分けている。それらに対応する中国語の動詞を検証したところ、本稿で挙げる“吃”（食べる）や“喝”（飲む）のほかに、“唱”（歌う）も総称目的語の脱落を許すことがわかった。

構文においては、総称目的語が脱落していると思われる現象がある。

- (18) a. 张三 能 干 各种各样的 活儿。
张三 できる する 様々な 仕事
‘張三は様々な仕事ができる。’
- b. 张三 很 能 干 (活儿)。
张三 とても できる する 仕事
‘張三は仕事ができる。’
- (19) a. 张三 经常 买 一些 物美价廉 的 东西。
张三 いつも 買う いくつか 質が良くて値段が安い の もの
‘張三はいつも質が良くて値段が安いものを買う。’
- b. 张三 很 会 买 (东西)。
张三 とても できる 買う 物
‘張三は買い物上手だ。’
- (20) a. 你 摠好 紙, 我 好 写 这个字。
あなた きちんと押さえる 紙 私 しやすい 書く この字
‘紙をしっかり押さえてください。この字を書きやすいから。’
- b. 这 支 笔 好写 (字)。
この Cl ペン 書きやすい 字
‘このペンは書きやすい。’

(熊 2011 : 69)

(18b) (19b) は可能構文であり、主語“张三”(張三)の特徴について述べている。(20b) は難易構文であり、主語“这支笔”(このペン)の属性・性質について述べている。また、(18a) (19a) (20a) に示すように、これらの文における動詞“干”(する)、“买”(買う)、“写”(書く)は、いずれも目的語をとれる他動詞である。(18b) (19b) (20b) では、各動詞の後ろに裸名詞の目的語があってもなくても、総称的解釈がなされる。すなわち、(18b) における“能干活儿”と“能干”、(19b) における“会买东西”と“会买”、(20b) における“好写字”と“好写”はほぼ同じ意味を表しており、文全体で総称的解釈がなされるという点でも変わらない。こうした例を見ると、中国語の可能・難易構文では、総称目的語の脱落が許されるのではないかと思われるかもしれない。

しかし、こうした見方は正しくない。呂(1980)や、古川(2005)、熊(2011)などは、中国語における“好V”は形容詞であると主張している。熊(2011)は、“好V”は(21)に示すような構造を持つと指摘している。

(21) [A[好][V(写)]]

(熊 2011 : 69)

この構造では、“V”が形容詞の“好”の直後に移動し、“V”と“好”が融合して一つの複合語“好V”を形成している。Vが“好”の直後へ移動しているため、複合語の品詞は“好”と同様に形容詞である。“好V”は、程度副詞“很”(とても)によって修飾されることや、

“不”（ない）によって修飾されるが、“没”（なかった）によっては修飾されないといった形容詞と同様の文法的特徴を見せることから、形容詞であるとされている。この議論に基づくと、“好写”（書きやすい）は形容詞であり、そもそも目的語をとらないため、(20b)では、総称目的語が脱落しているとは言えない。

一方、中国語における“能”“会”（-られる、できる）は、一般的に助動詞として分析されている（湯 2000 など）。そのため、“能干”“会买”は“V+V”という構造であり、複合動詞であると思われる。しかし、(22)に示すように、“能干”と“会买”は“好写”と同様に、動詞よりも形容詞的な特徴を有している。

- (22) a. 很 能 干 / 很 会 买
 とても できる する とても できる 買う
 ‘仕事ができる。/ 買い物上手だ。’
- b. 不 能 干 / 不 会 买
 ない できる する ない できる 買う
 ‘仕事ができない。/ 買い物は上手ではない。’
- c. *没 能 干 / *没 会 买
 なかった できる する なかった できる 買う

本稿は、“张三能干活儿”（張三は仕事ができる）における“能干”と“张三能干”（張三は有能である）における“能干”は、構造が異なり、同一視すべきではないと考える。結論から言えば、前者の“能干”は助動詞“能”が動作動詞“干”を伴った動詞句であるが、後者の“能干”は全体で一つの状態動詞である。以下の例を参照されたい。

- (23) a. 张三 能 干 活儿 吗？
 張三 できる する 仕事 か
 ‘張三は仕事ができますか。’
- b. 能 干（活儿）。/ 能（干活儿）。
 できる する 仕事 できる 仕事
 ‘できますよ。’
- c. [张三 [能 [干 [活儿]]]]
- (24) a. 张三 能 干 吗？
 張三 できる する か
 ‘張三は有能な人ですか。’
- b. 能干。/*能。
 有能です。
- c. [张三 [能干]]
- d. *[张三 [能 [干 e]]]

(23)では、bに示すように、質問に対する答えとして、“能干”と“能”の両方を使うことができる。“能干”で答える場合には、目的語が脱落しており、“能”で答える場合には、VP

削除が関与していると考えられる。一方、(24) では、a の質問に対して、“能” と答えると不自然であり、“能干” と答えなければならない。“张三能干” が“张三能干活儿” から目的語“活儿” が脱落してできた形式であると考えた場合、なぜこのような相違が存在するのか、説明しがたい。“能干” と答えなければならないことは、(24a) の構造は (24d) ではなく、(24c) のようになっていることを意味する。すなわち、“能干” は一つの語であると考えられる。

(22) に示すように、“能干”、“会买” は“好写”と同様に、形容詞的なふるまいを見せる。“能”、“会” は、能力を表す語であり、状態の叙述に用いられる。“*很干”、“*很买”といった形が成立しないのに対して、“很能干”、“很会买”が成立することから、“能干”、“会买”は“干”、“买”という動作動詞の特徴よりも、“能”、“会”という状態を表す動詞の性質に近く、全体として形容詞的に使われていると考えられる。形容詞は通常、主語はとるが、目的語はとらないため、形容詞的に使われている“能干”“会买”を用いる(18b)(19b)は、総称目的語が脱落した文ではないといえる。⁶

4.2.2 対比・並列の文脈による総称目的語の脱落

Mittwoch (2005) は、英語における目的語の脱落は、意味的に対比される複数の動詞が並ぶ文脈の中で、最も起こりやすいと指摘している。

- (25) a. You only **take**, you never **give**. (Mittwoch2005 : 252)
 b. Pat **gave and gave**, but Chris just **took and took**. (Goldberg2001 : 506)
 c. Beavers **kill during the day**, but tiger only **kill at night**. (同上 : 513)

(25a,b)における“take”と“give”は、対義的關係にある。(25c)では、前の節と後ろの節で同じく“kill”という動詞が使われているが、それらの動作にかかる異なる時間表現“during the day”と“at night”によって前節と後節の対比關係を示している。

中国語でも同様の傾向が観察される。

- (26) a. 张三总是 只 说 e 不 干 e 。
 张三 いつも ただ 言う ない する
 ‘张三はいつも言うだけで、やらない。’
 b. 低价 买入 e, 高价 卖出 e, 被认为 是 投机行为。
 低価 購入 高価 売り出す 思われる だ 投機的な行為
 ‘低価格で購入し、高い値段で売り出すことは投機的な取引だと思われる。’

⁶本稿は、「助動詞“能”“会”+動詞」という複合語を作るプロセスにおいて、品詞転換が起きたかどうかという問題には深く踏み込まないことにする。辞書では“能干”は形容詞に分類されている(『現代漢語規範辞典』第3版, P954)。「助動詞“能”“会”+動詞」という複合語を作るプロセスにおいて、すべての語(“能说”〈話すことができる〉、“会写”〈書くことができる〉など)に品詞転換が起きるとは断定できないが、ここでは、「助動詞“能”“会”+動詞」という複合語が形容詞的なふるまいを見せるという点に注目し、議論を進めることにする。

c. 做人 不能 一味地 索取 e, 也要 适当地 给予 e。

人として てはならない 一方的に もらう も 必要だ 適切に あげる

‘人として、一方的に人から受け取るのはよくない。適宜与えることも大切だ。’

(26a) は主語“张三”(張三)の特徴について述べた文であり、“只 V1 不 V2”(ただ～するだけで、～しない)という形式を用いて、肯定の“只说”(言うだけ)と否定の“不干”(やらない)を対立させている。(26b)はある行為に対する説明であり、(26c)は、人としてのあり方に関する道理を述べた文である。これらの文では、“买入”(購入)と“卖出”(売り出す)、“索取”(もらう)と“给予”(与える)のように、対義語を用いて二つの動作を対立させている。これらの文では、目的語は顕在的に現れていないが、総称的な解釈が読み取れる。

対比的文脈以外では、以下の(27)に示すように、同じようなイメージを持つ動詞を四つ並列させ、複数の行為を列挙する場合にも、総称目的語の脱落が許されるように見える。

(27) a. 张三 年轻的 时候, 吃 喝 嫖 赌 样样都 干。

張三 若い 時 食べる 飲む 買春する 賭ける 何でも する

‘張三は若い時、「食う・飲む・買う・打つ」のすべてをして暮らした。’

b. 这个 地区 治安 很 差, 烧 杀 抢夺 时有发生。

この 地域 治安 とても 悪い 焼く 殺人 奪い取る よく 起こる

‘この地域は治安が悪く、放火、殺人、強盗がしょっちゅう起こる。’

Goldberg (2001) は、英語における目的語の脱落に関して、“Omission under Low Discourse Prominence” 原則を提示している。すなわち、談話において、動詞が表す動作が繰り返しや対比などによって強調されているが、目的語は話題や焦点ではなく、強調されていない場合に目的語の脱落が生じるという。この規則に基づくと、(26a) では、「言う」、「やる」という行為自体が肯定・否定の対比によって談話の焦点となっており、「何を言うか」、「何をやらないか」といった情報は重要ではない。(26b, c) では、対義語を用いることで、反対の意味を持つ二つの動詞が焦点となっており、目的語が持つ情報の重要性は低下している。(27) では、四つの動詞が並列されており、動詞が表す動作あるいは行為が強調されている。こうした理由により、(26) (27) における総称目的語は脱落が可能であると分析できる。

ところが、中国語において、並列・対比の文脈環境は総称目的語の脱落にとって重要な要素であるが、十分な条件であるとは言えない。以下の例に示すように、並列・対比の文脈において、総称目的語の脱落が許されない場合もある。

(28) 有些 犯人 只抢*(钱) 不杀*(人), 所以 必要时 不要 吝惜

ある 犯人 お金を奪うだけで殺人しない だから 必要な時 するな 惜しむ

財物。

金銭と物資

‘犯人の中には、お金を奪うだけで、殺人しないものもいます。だから、必要な時には財物を惜しまないでください。’

(28) は、(26a) と同様に“只 V1 不 V2” (ただ～するだけで、～しない) という形式をとっており、肯定・否定の対立により動詞“抢”と“杀”が表す動作を強調していると思われるが、(26a) とは異なり、動詞“抢”と“杀”の目的語の脱落は許されない。このような差異が存在することから、“Omission under Low Discourse Prominence” 原則は、総称目的語の脱落にかかわる重要な規則ではあるが、決定的なものではないと言える。なお、この原則については、どのような談話環境において動詞が表す動作自体が強調されるのか、という点をより明確にする必要があると考える。

また、(27) に関しては、必ずこれら四つの動詞が並ぶことが要求され、四字熟語として用いられていると考えられる。四字熟語は、周知のように、固定した形式や成分を持ち、生産性が低い。例えば、中国語の“坑蒙拐骗”という四字熟語は、「人を陥れ、騙す」という意味を表す。これは、(27b) の“烧杀抢夺” (放火、殺人をして、財物を奪う) という四字熟語と同じくマイナスイメージを持つ言葉であり、人の悪行を表現するときに使われる。しかし、これら二つの表現からそれぞれ一部を取り出して組み合わせ、“烧杀拐骗”という表現をつくることはできない。四字熟語のこのような性質から言うと、(27) における“吃喝嫖赌”“烧杀抢夺”という表現は、それぞれ一つの固定した表現と見なすべきであり、目的語がレキシコンで満たされ、シンタックスまで投射されていないという Rizzi (1986) の議論によって説明するのが妥当であると思われる。こうした理由により、(27) は総称目的語が脱落している文として分析すべきではないと考える。

5. 本稿のまとめと今後の課題

本稿は、英語との対照を通して、中国語における総称目的語の脱落現象について考察を行った。その結果、中国語において、特定の動詞 (“吃” “喝” “唱” など) が用いられる場合、総称目的語の脱落現象が見られることが分かった。ただし、Mittwoch (2005) で指摘される英語における総称目的語の省略を許す動詞の数と比べ、中国語におけるそのような動詞の数は非常に少ない。また、可能・難易構文や対比・並列を表す構文形式では、一見、総称目的語が脱落しているように見えるが、可能・難易構文では、動詞が能力・難易を表す要素と融合することにより、形容詞や状態を表す複合語となり、目的語をとれなくなるため、総称目的語の脱落が生じているわけではないことを主張した。対比・並列を表す構文では、“只 V1 不 V2” (ただ～するだけで、～しない) という形式や対義語を用いて、動詞が表す動作に焦点をあてることにより、総称目的語の脱落が可能になる場合がある一方、それが許されない場合もあるため、どのような談話環境において脱落が起きうるのか、より厳密に検討する必要があることを指摘した。また、複数の動詞を並べる四字熟語は固定的な表現であり、総称目的語の脱落が発生しないことを述べた。

本稿では、中国語における“吃” (食べる)、“喝” (飲む)、“唱” (歌う) など、ごく一部の動詞が総称目的語の脱落を許す理由については、明らかにできなかった。この点については、今後の課題としたい。

【参考文献】

- 王丹丹(2008a)「任意の解釈をもつゼロ要素と代名詞の交替」『日本語文法』8-1, pp.20-35.
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ出版
- 影山太郎(2011)『日英対照 名詞の意味と構文』大修館書店
- チェイフ. W.L(1974)『意味と言語構造』, 青木晴夫訳, 大修館書店
- 福沢清(1985)「総称名詞句の特性について」『熊本大学教養部紀要 外国語・外国文学編』20, pp. 1-24.
- 古川裕(2005) 現代汉语の“中动语态句式”——语态变换的句法实现和词法实现, 《汉语学报》2, pp. 22-32.
- 刘丹青(2002) 汉语类指成分的语义属性和句法属性, 《中国语文》5, pp.411-422.
- 刘正光(2007) 宾语隐形时的语义与语用特征, 《外语教学与研究》39-1, pp.43-50.
- 吕叔湘编(1980) 《现代汉语八百词》商务印书馆
- 汤廷池(2000) 汉语的“限定从句”与“非限定从句”, *Language and Linguistics* 1(1), pp.191-214.
- 王丹丹(2008b) 解析具有任意指称的主宾的不对称性, 《语言科学》7-5, pp.483-491.
- 王丹丹(2014) 《对 pro 脱落语言中空语类的句法分析: 以日语和汉语为中心》四川大学出版社
- 熊仲儒(2011) “NP+好 V” 的句法分析, 《当代语言学》13-1, pp.63-72.
- Chafe, Wallace L. (1970) *Meaning and the structure of language*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on government and binding*. Foris: Dordrecht.
- Chomsky, Noam (1986) *Knowledge of language: Its nature, origins and use*. New York: Praeger.
- Goldberg, Adele E. (2001) Patient arguments of causative verbs can be omitted: The role of information structure in argument distribution. *Language Sciences* 23, pp.503-524.
- Huang, C.-T. James (1984) On the Distribution and Reference of Empty Pronouns. *Linguistic Inquiry* 15, pp.531-574.
- Huang, C.-T. James (1989) pro-drop in Chinese: A generalized control theory. In: Osvaldo Jaeggli and Kenneth J. Safir (eds.), *The Null Subject Parameter*, pp. 185-214. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
- Kuroda, Sigeeyuki (1983) What can Japanese say about government and binding, *WCCFL2*, Stanford University.
- Li, Charles N & Thompson, Sandra A. (1976) Subject and topic: A new typology of language In: Charles. N. Li (ed.), *Subject and Topic*, pp. 457-489. New York: Academic Press.
- Mittwoch, Anita (2005) Unspecified arguments in episodic and habitual sentences. In Nomi Erteschik-Shir and Tova Rapoport (eds.) *The Syntax of aspect*, pp.237-273. Oxford: Oxford University Press.

Moltmann, Friederike (2006) Generic one, arbitrary PRO, and the first person. *Natural Language Semantics* 14, pp.257-281.

Rizzi, Luigi (1986) Null Object in Italian and the Theory of *pro*. *Linguistic Inquiry* 17, pp.501-557.

Suñer, Margarita (1983) *pro*_{arb}. *Linguistic Inquiry* 14, pp.188-191.

【辞書】

《现代汉语规范词典》(2014年第3版), 李行健主编, 外语教学与研究出版社, 语文出版社.

【略語リスト】

arb	arbitrary interpretation
Cl	Classifier
Dur	Durative
e	empty category
pro	pronoun
Perf	Perfect
Q	Question